

新規事業採択時評価結果（平成27年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業の概要

| | | | | | |
|-----------|---|-------|------------|------|---------------------|
| 事業名 | 一般国道6号 勿来バイパス | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 国土交通省 東北・関東地方整備局 |
| 起終点 | 自：茨城県北茨城市関本町 関本中 至：福島県いわき市勿来町四沢鍵田 | 延長 | 4.4 km | | |
| 事業概要 | 勿来バイパスは、一般国道6号の茨城・福島県境における津波浸水区間の回避と渋滞緩和等を目的とした延長4.4 kmの道路である。 | | | | |
| 事業の目的、必要性 | 当該区間の整備により、常磐バイパスと連続した茨城・福島両県を結ぶ主要幹線道路として、一般国道6号における津波浸水等の災害リスクを回避するネットワークの確保、渋滞の緩和、アクセス改善による観光地再生、第三次救急医療施設への搬送時間短縮等が図られる。 | | | | |
| 全体事業費 | 約185億円 | 計画交通量 | 約11,300台/日 | | |
| 事業概要図 | | | | | |

関係する地方公共団体等の意見

【福島県知事】一般国道6号勿来バイパスは、災害に強く救急搬送等にも役立ち、広域的な地域間交流の拡大にも資する幹線道路ネットワークを担う重要な路線であることから、平成27年度新規事業としての予算化及び早期整備が図られるようお願いいたします。

【茨城県知事】「一般国道6号勿来バイパス」の平成27年度予算化については、異議ありません。

本バイパスは、一般国道6号の交通渋滞の緩和や災害時の緊急輸送に寄与する道路であるとともに、東日本大震災の復興の柱として重要な役割を担うことから、事業の実施にあたりましては、コスト削減を図りながら、早期完成に向けて特段のご配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業化については妥当である

事業採択の前提条件

■費用対便益：便益が費用を上回っている。

■手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H26.3.5）
都市計画決定手続き完了（茨城県H27.1.22、福島県：H27.1.23）

事業評価結果

| | | | | | | |
|--------|-------------|--|--|---|-----------|--|
| 費用対便益 | B/C | 1.7 | 総費用：143億円 （事業費：132億円 維持管理費：12億円） | 総便益：242億円 （走行時間短縮便益：188億円 走行経費減少便益：45億円 交通事故減少便益：9.4億円） | 基準年：平成26年 | |
| | 感度分析の結果 | 交通量変動 | B/C=1.6（交通量 -10%） | B/C=1.9（交通量 +10%） | | |
| | | 事業費変動 | B/C=1.6（事業費変動 +10%） | B/C=1.9（事業費変動 -10%） | | |
| | 事業期間変動 | B/C=1.6（事業期間変動+20%） | B/C=1.8（事業期間変動-20%） | | | |
| 事業の影響 | 評価項目 | 評価 | 根拠 | | | |
| | 自動車や歩行者への影響 | 渋滞対策 | ◎ | 北茨城市～いわき市をつなぐ新たなバイパスが形成され、国道6号の通過交通が分散し、渋滞が緩和。 〔混雑度の減少（国道6号 勿来駅前～四沢交差点）〕 現況 1.7（18,400台/日） → 整備後 0.8（8,700台/日）〔約5割減少〕 | | |
| | | 事故対策 | ○ | 国道6号の渋滞の緩和により、交通事故が減少。 | | |
| | | 歩行空間 | — | 注目すべき影響はない。 | | |
| | 社会全体への影響 | 住民生活 | ○ | 第三次救急医療施設への搬送時間が短縮するなど、地域住民の命を守る救急医療活動を支援 〔北茨城市大津町北町から総合磐城共立病院までの搬送時間〕 現況 41分 → 整備後 36分〔約5分短縮〕 | | |
| | | 地域経済 | ◎ | 常磐バイパスとの接続により、いわき市・北茨城市の魅力ある観光地の再生を支援。 〔バイパス整備が進むいわき市の観光入込客数の事例〕 バイパス開通前（H10）767万人 → 現況（H22）1,077万人〔4割増加〕 | | |
| | | 災害 | ◎ | 津波浸水区間を回避し、災害時等の避難・救援活動を支えるネットワーク確保 〔国道6号通行止め時の迂回距離・迂回時間〕 現況 約3倍 → 整備後 ネットワーク寸断回避、迂回解消 | | |
| 環境 | | — | 注目すべき影響はない。 | | | |
| | 地域社会 | — | 注目すべき影響はない。 | | | |
| 事業実施環境 | ○ | ・都市計画決定手続き完了（茨城県：H27.1.22、福島県：H27.1.23） ・いわき市長、北茨城市長より勿来バイパスの早期事業化を要望 | | | | |

採択の理由

費用便益比が1.7と便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。

また、本事業により、渋滞緩和や事故減少並びに救急医療施設への搬送時間短縮が期待でき、更に災害時等の避難・救援活動を支えるネットワーク確保や、常磐バイパスとの接続により、いわき市・北茨城市の魅力ある観光地の再生を支援する等、当該事業の必要性・効果は高いと判断できる。

以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。